

種別: サテライト校留学  
期間: 3か月 留学時の学年: 高校1年



# オーストラリア ブリスベン

## 留学のきっかけ

中学生の頃から高校生になったら将来留学することにすごく興味があり、高校に入学してすぐに教育委員会が主催されている「府立高校海外サテライト校事業」があることを知りました。自分の英語力を高め、表現する力を身に付けるチャンスだと思い申し込みました。また異国の文化を知ること、自分も日本の文化を伝えていきたいと強く思いました。将来は国際的な仕事に就きたいと思っているため、この留学はすごく大切な経験になると思い、何も知らない分からない環境の中で自分を試してみたく勇気を出しました。



## 留学生活全般 一番の思い出

私の中で一番の思い出は「留学を通しての多くの人との出会い」です。留学へ行く前は誰一人友達もおらず、自分の英語にも全く自信がなく、3ヶ月間を乗り越えられるかすごく心配でした。しかし実際は全然そんなことなく、優しく面白くて自分を受け入れてくれる人たちでいっぱいでした。

私が困っているときに気づいて声をかけてくれたり、たくさん遊びに誘ってくれたり。まるで自分が前からそこにいたような気持ちになれるくらい温かい環境でした。英語が苦手な私を一人の友達として捉えてくれてたったの3ヶ月でこんなにも心を開ける親友が多くできたことにびっくりしています。そしてホストファミリーはいつも私のことを心配してくれ考えてくれ、家族の一員として受け入れてくれました。特に私が遊びまくってしまっていたときは安全を考慮した上でルールを決めて送り出してくれたり、50年ぶりのサイクロンが来て怖かったときは親身に寄り添ってくれた事で安心して生活がおくれました。いつもその日あったことを聞いてくれてたくさんコミュニケーションも取ることができました。

それだけでなく学校の先生や留学を通して関わってくれた方全員のおかげで私は自慢できるくらい良い生活が送れたし、留学がなかったらこんなにも最高の人たちと出会っていなかったと思うと、全ての出会いに本当に感謝です。1番の思い出は決められないくらい毎日が濃く充実した日々でした。

## 英語学習

普段の生活の中で英語を話したり聞いたりすることで、自然と英語が出てくるくらい慣れることができました。授業ではドラマの授業、ホスピタリティ、数学、スポーツなど様々な経験をしてどれも友達と協力したりレポートを作成したりとても楽しかったです。またできるだけ早く英語力を習得できるように積極的に日常会話をしたり分からないことを聞いたりして英語を使う場面を多くすることを意識しました。ただ授業を受けるのではなく、英語を通して沢山の实技科目に挑戦して学びを得られ日本の学校と比較して本当に楽しみながら毎日過ごせたのが良かったです。

## 授業外の活動

とにかく休みの日は一日中家にいるという日を一切作らず、街を探検したり買い物をしたり観光をするなど今しかできないことを精一杯楽しみました。緊張しながらも友達に遊びを誘ったり、時には1人で計画を立て道に迷いながらも色んな場所に訪れた事も思い出となりました。放課後も休日と同じように連絡をしっかりとって友達と遊びに行ったり一人で新しい場所へ行ってみたりしました。また私が色んなことに興味を示すことからホストファミリーがおすすめの場所や魅力のあるところへ連れていってくれることも多かったです。そこでは自分や家族のこと、日本の文化についてのなどの話題を共有しました。ホストファミリーや友達との時間、自分の時間も確保でき幸せな時間を過ごすことができました。



## 留学したことで学んだこと、得たもの

私が一番留学で得たことは「自立」する力だと思います。親元を離れ知り合い一人といず、未来がどうなるかもわからないし、一人で考えて行動していかなければならない状況の中で最初は緊張と不安でいっぱいでした。しかし毎日日記をつけて自分を振り返り分析することで課題点が見つけれられ少しずつ成長できました。やるべきことや予定も全て自分で決めて動かなければいけないし自分自身に責任があります。その経験が自信にも繋がりました。

二つ目は「伝えることの大切さ」です。私は今まで自分に英語の自信がないからこそ英語でコミュニケーションをとることに恥ずかしさを覚えていました。しかし英語を使わなければ自分の言いたいことも伝わらないし、友達もできません。文法に自信がなく恥ずかしいけれど声をかけてみる、一文でも話してみる、この意識が全てを変えてくれました。自分が間違えても優しく受け入れてくれてむしろ自分が話しかけた倍以上笑顔で話してかけてくれて、完璧じゃなくても積極的に伝えることで輪が広がっていくことに気がつきました。ホストファミリーからルールや大事な情報を聞いたり、自分の予定を伝えたり、他にも日本の文化を伝える日を作ったり、コミュニケーションをとる時間を多くすることが大切だと改めて学びました。

最後に「自分らしくいること」です。様々な国で多様な価値観をもった人と出会ったけれど、それぞれに良さがあるからこそ、考え方は違ってても良い、周りも自分の考えも尊重することの大切さを実感しました。

## 今後の進路や夢、これから取り組もうと思っていること

私の中でこの留学は間違いなく人生で一番の思い出です。多くの友達ができ、コミュニケーションを取ったことや、現地にいる時に東京から30人以上の留学生が来たときに積極的にBuddyに立候補して間に入りお互いの会話がうまく行くように通訳をした経験などから将来英語を活かせる仕事に就きたいと強く思えるようになりました。そして大学生になったら今回の経験を活かし1年留学に行きたいと思います。そのためには今のこの高校2年生の間に英検準1級を獲得できるようにより一層英語学習に力を入れて取り組んでいきます。

## これから留学される方へのメッセージ

もし少しでも留学に興味があるのなら迷わず行くべきです！私も正直申し込んだ時は楽しみだったけれど出発1週間前になると不安でいっぱいだったし生活に慣れるまでの間は大変なことも多かったです。でもその先には数え切れない楽しさと幸せが待っています。そして毎日が新しいことばかりで日本にいたら気付けない自分の一面を知れるだけでなく行動力や考え方も大きく成長します。留学に行ったらまずどんなことにも恐れず、とにかく色んなことにトライしてください！このポジティブ思考、前向きな姿勢は大きな原動力になるし間違いなく最高の思い出となります。とにかくどんなことも楽しく捉えてその時しかない一つ一つの瞬間を大切にしてください！



種別:海外短期留学チャレンジ  
期間:16日間 留学時の学年:高校1年

# マルタ



## 留学のきっかけ

中学でオーストラリア研修旅行に行った際、初めて行く海外の面白さと、思っていたよりも英語に触れられる機会が少なかったことから「もう一度英語を活用して海外に行きたい!」と思い、行きたいと思う気持ちがある間に早めに行っておこうとなり、留学しました。

## 留学生活全般 一番の思い出

いろいろあるんですが、同じ寮部屋の他の国の留学生と一緒に、別の人のタブレットを使って2人用対戦ミニゲームを色々したことですかね。楽しいことは国に関係なく楽しめるのだなということを実感しました。

## 英語学習

前半一週間は午前中に、後半一週間は午後に授業がありました。主に先生が配るプリント教材を使って授業を進めていました。問題の内容について他の留学生と話したり、ディスカッションや発表もしました。一週間の最後の授業では部屋の外に出て、校内にあるビーチバレーコートでみんなでバレーボールをしたりもしました。

## 授業外の活動

留学先の学校では、午前、午後、夜にそれぞれアクティビティがあり、校内のプールで遊んだりカラオケをしたり、校外の観光地やクラブ活動に行ったりと、様々な楽しい時間を過ごせました。



## 留学したことで学んだこと、得たもの

留学を通して私は文化などの違いを体感し、驚くことも多かったですが、その「違い」にずっと触れているうちに慣れて受け入れられるようになりました。つまりは、文化や習慣の「違い」に出会ったとき、拒絶するのではなく、「そういうものもあるよな」と受け入れられる寛大な心を持てるようになったということです。このような心を人々が持てるようになっていけば、少しずつではあるけれど差別や偏見を無くしていけるのではないのでしょうか。

## 今後の進路や夢、これから取り組もうと思っていること

留学に行ったことで「これ！」といった進路や夢ができたわけではありませんが、海外に行き色々な人と話したり、様々な場所を訪れたりすることはとても楽しいものでした。だから、次は個人で海外へ行ってみたいと思いました。そのためにも、まだまだ不十分な英語力を上げたり、海外へ行けるようなお金を稼げるようになったりできるよう、とりあえずは学業に邁進していけたらと考えています。

## これから留学される方へのメッセージ

留学は事前準備も大変で、実際に行ってからでも大変ではありますが、それ以上に楽しいこともたくさんあったので行く価値は絶対あります。日本では見られないようなものがどんどん出てきて、毎日が新たな出会いです。社会人になってから行くのはとても大変だと思うので、高校生で行けるうちに行っておきましょう！



種別:オーストラリア語学研修  
期間:2週間 留学時の学年:2年



# オーストラリア アデレード

## 留学のきっかけ

わたしはこれまで海外に行ったことがなかったため、海外の文化に強い興味を持ったのがきっかけです。ホームステイで日本と異なる文化を体験し、語学学校に通うことで他国の人々の考え方や価値観を学べると思ったことが大きな理由でした。将来は研究者として世界に向けて発信したいと考えているので、高校生の頃から多様な文化に触れ、創造力を広げ、柔軟な考え方を身につけたいと思いました。また、海外に行くことで英語によるコミュニケーション能力を高めたいという気持ちもありました。

## 留学全般

### 一番の思い出

学校でのお別れパーティーが一番の思い出です。バディや学校の先生、ホストファミリーが集まってくれて、みんなで食事をしました。テーブルではバディとホストファミリーを交えてたくさん会話ができて、とても楽しかったです。日本人のみんなと練習したダンスを披露できたことも嬉しかったです。このパーティーはバディとの最後の時間、そしてホストファミリーと食べる最後の夕食だったので、お別れはとても寂しかったのですが、楽しいひとときを過ごすことができました。

### 英語学習

現地では、英語だけでなく、数学や体育、家庭科、ドラマなどさまざまな科目の授業を受けました。授業は全て英語で行われたので、はじめは聞き取ることに苦労しましたが、3日目ぐらいからはリスニング能力が上がったと感じました。日常会話はほぼ問題なくできるようになりましたが、カタカナ英語はなかなか伝わりにくく、辞書やスマートフォンで発音を調べることもありました。

### 授業外の活動

課外学習では、ワイルドライフパークやアデレードの都市部を訪れました。カンガルーに餌をあげて、バディとの仲を深められたのがとても良かったです。学校の休み時間はバディとその友達と過ごし、オーストラリアのお菓子や家族などについて、色々と話せて楽しかったです。ホストファミリーにはたくさんドライブに連れて行ってもらいました。ビーチで夕日を見たり、海辺で犬と散歩をしたり、丘の上にあるチョコレートファクトリーに行ったりしました。家にいる時は一緒にフットボールを観戦したり、日本の文化を紹介したりしました。どれも楽しかったです。

## 留学したことで学んだこと、得たもの

英語にもさまざまな種類があることを学びました。わからない単語があっても、似た単語を使ったり、説明やジェスチャーで伝えたりすれば、意外に通じると実感しました。自分の思いを正直に伝えたり、積極的に話しかけたりする力がついたと思います。また、異文化の中で柔軟に適應できる力を身につけることができました。日本の文化をバディに紹介するために、伝統的なものやお菓子について改めて学んだことも良い経験でした。博物館に行くことで、オーストラリアの歴史も少しですが知ることができました。自分の身を違う環境に置いてこそ得られる学びがあると感じました。

## 今後の進路や夢、これから取り組もうと思っていること

私は理学部か医学部に進学して医学研究者になりたいと考えており、グローバルに活躍できる人材を目指しています。海外の人とこれからもたくさん関わって、異文化を知り、視野を広げ、たくさんの人の価値観や考え方を理解できる人になりたいです。これから取り組みたいことは、英語の学習をさらに強化すること、主体性や積極性を育むために色々なことにチャレンジすること、そして多様な文化に触れつつ、日本の伝統文化を海外の人々に伝えることです。留学を通じて、自分の知らないことやチャレンジできることは無限にあると実感したので、今後はさらに多くのことに挑戦していきたいと思っています。また、語学を学ぶことで、より多くの人とコミュニケーションができ、さまざまな情報を得られると知り、語学を学ぶことはとても楽しいと感じました。

## これから留学される方へのメッセージ

留学に行く前は「英語が話せなかったらどうしよう」、「現地で友達ができるか不安」など、心配になると思います。でも、実際に行ってみるとどうにかなります。単語を思い出せなくても、ジェスチャーや似た言葉で大体伝わります。食事や家のづくり、道路など日本とは全く異なる文化に触れることができ、とても楽しかったです。現地の人も優しいですし、一緒に行く日本人の仲間ともすぐに打ち解けれます。ホストファミリーも優しいです。2週間はあっという間なので、初日から積極的に話しかけることをおすすめします。ぜひ楽しんできてください。



種別: オーストラリア語学研修  
期間: 2週間 留学時の学年: 1年



# オーストラリア アデレード

## 留学のきっかけ

小学生の時から英語や外国のものが好きで、留学に前から興味があった。私は人前で話すとき必要以上に緊張したり、思っていることをうまく言えなかったりするので、そんな自分を変えて自信をつけたいと思った。

## 留学全般

### 一番の思い出

ホストファミリーにビーチや買い物に連れて行ってもらったこと。留学中ホストファミリーにはとても丁寧に接してもらい何も不自由しなかったけれど、特別扱いをしすぎずに普段行くスーパーや矯正歯科、習い事の柔道にもついて行かせてくれて、リアルな現地の暮らしに触れることができた。



## 英語学習

日本にいて外国の方と英語で話す機会をなかなか作れず、留学先で自分の言いたいことが伝わるか、相手の言いたいことが伝わるか不安だったので、事前学習も少しだけした。例えばPodcastで英語の番組を聴いたり、会話表現を本で学んだり。それでも文法や単語を完璧にすることはできなかったけれど、会話をスムーズにすることや自信を持って話すことにつながったと思う。留学先では、たまに英語が聞き取れなかったり、自分の思い込みでカタカナ英語を使い(例えば発音とか、リボンとbowの違いとかを知らなかった)会話を止めたりしてホストファミリーや友達にたくさん迷惑をかけたと思うけれど、私たちが伝えようとする限り、留学先の人たちは何を伝えたいのか理解しようとしてくれたので、最後まで誤魔化さないで伝えることが大切だと感じた。

## 授業外の活動



校外学習に行く機会が多く、特にWild Life Parkというオーストラリアでしか会えない動物にたくさん会える場所に行ったのが印象に残っている。現地でしか体験できないこと、現地でしか買えないものに目を向けることで、留学がより楽しくなったと思う。逆に日本にもあるようなスーパーや薬局に行くと日本との違いを探してみるのも楽しいと思う。校外での活動やホストファミリーとの外出では、お店の人や現地の人と積極的に話してみたことでよりオーストラリアのことを知ることができたし、英語力も上がったと感じている。

## 留学したことで学んだこと、得たもの

移民が多いからこそそのオーストラリアの街の景色や各家庭の生活様式を自分の目で確かめて考えることができた。

ホストファミリーの通っている学校に留学期間中一緒に通っていたので、登下校は毎日一緒だった。私たち留学生のほうで終了時間が遅いことがほとんどでホストファミリーを待たせていたので、「待たせてごめんね」と言ったら困った表情をされたのが気に掛かり、次の日は「待っていてありがとう」と言ってみたら、「問題ないよ!」と返事をしてくれた。日本でも相手によってはそうかもしれないし、海外でも謝ることは大切だと思うが、お礼を先にはっきり伝える方が相手は気持ちが良いし、海外の人と仲良くする上で大切なことのひとつなのかなと感じた。

ホストファミリーだけでなく現地校の生徒とも友達になれた。私は日本に帰ってきててもホストファミリーとプレゼントや手紙のやり取りをしているので、日本での楽しみも一つ増えたと思う。

## 今後の進路や夢、これから取り組もうと思っていること

日本の大学に進学しようと考えているが、大学の留学制度を使ってもう一度留学先であるアデレードの大学で学びたいと思っている。これからも英語と海外の文化を学び続けて、具体的には決められていないが、将来は英語を使う仕事につきたい。そのために、校内の海外交流のプログラムを活用したり、留学先で知り合った人との交流を続けて、自分から英語を使う機会を作っていきたいと思う。



## これから留学される方へのメッセージ

留学に申し込むのにも、いく準備をするのにもとても時間がかかると思うので大変なことも多いかもしれないけれど、留学先ではそれ以上に楽しいこと、貴重な体験が待っているのです。少しでも興味があったら一度チャレンジしてみてほしいです。私は人前で話すことが得意ではなかったし、自分には何の取り柄もないなと悩むことが多かったけれど、留学に行ってみて英語が少し上達したことや現地の方と積極的に話す機会を作っていたことで自信をつけられたし、何より経験値が上がったと実感しています。オーストラリア語学研修では添乗員さんや現地校の先生、ホストファミリーが常に見守ってくれたので、安心して留学生活を送ることができました。高校生のうちに海外に目を向けてみるとこれからの進路を選ぶ時の視野も広まると思うので、ぜひ現地でも自分からいろいろなことをやってみてほしいです。

種別:海外短期留学チャレンジ  
期間:16日間 留学時の学年:1年



# カナダ バンクーバー

## 留学のきっかけ

自分の英語力をはかるとともに、異文化の経験を通して多様な考え方に触れ、幅広い視野を身につけたかったから。

## 留学全般

### 一番の思い出

ホストファミリーと家でカラオケをしたこと。英語の曲だけでなく、ホストファミリーの出身国であるフィリピンの曲も勧められるがまに見よう見まねで歌った。歌うのは得意ではないが、盛り上がって楽しかった。

### 英語学習

午前中は家でZoomで授業を受けた。午後は現地の学校に通い、他の国から来た留学生と一緒に学習した。デジタル版のテキストを用いて、リスニングやライティング、リーディングなどのワークに取り組んだ。クラスメイトとのコミュニケーション活動も多く、お互いの国について交流できた。クラスでゲームをすることも多かった。

### 授業外の活動

学校から帰った後はホストファミリーとできるだけ長い時間過ごすように心がけていた。スーパーや寿司屋、教会などに連れて行ってもらった。また街を散策したり、友達とラーメンを食べたりするなど、短い期間でバンクーバーを堪能できた。

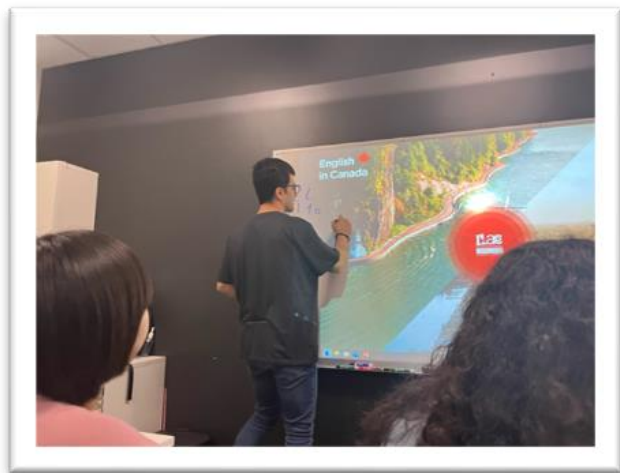


## 留学したことで学んだこと、得たもの

ホストファミリーや海外の留学生との交流を通して、国際交流の喜びを知ることができた。カナダの文化を肌で感じることができ、留学に行かなければできなかった経験をすることができた。驚くこともあったが、その環境を受け入れて過ごすことが異文化理解につながったと思う。留学前は人前で意見を言うのが苦手だったが、クラスメイトが積極的に発言するのを見て自分も少し慣れたと思う。カナダまで1人で行った上に、単独行動も多かったので度胸もついたと思う。日本を離れて過ごしてみて、あたりまえにある日常のありがたみを実感した。

## 今後の進路や夢、これから取り組もうと思っていること

国内の大学への進学を考えているが、自分の英語の拙さを痛感したので、さらに英語力を向上させて今後の国際交流の機会に活かせるようになりたい。英語力が向上したら、将来他の国への渡航にも挑戦してみたい。



## これから留学される方へのメッセージ

留学に不安があるかもしれませんが、現地でしか体験できない貴重な経験になるので、興味があればぜひチャレンジしてほしいと思います。トラブルもありましたが、ホストファミリーやエージェントの方が手厚くサポートしてくれました。英語に自信がなくても躊躇わずにコミュニケーションをとろうとすることが大切だと思います。その姿勢を見たら周りの人はきっと温かく受け止めてくれると思います。留学中はとにかく楽しんでほしいです。普段から多忙かもしれませんが、留学の準備は前もってやっておくほうが良いと思います。慣れない環境での生活になるので、何事にも事前の準備や時間の余裕を持つておくことが大切だと思います。

種別:海外短期留学チャレンジ  
期間:2週間 留学時の学年:1年



# カナダ トロント

## 留学のきっかけ

英語のスピーキング力とリスニング力を高めたいと思っていた時に、上記事業の募集要項を見て、他国の文化や生活を通して経験を積むという意味でも大きなチャンスだと思ったからです。

## 留学全般

### 一番の思い出

他の留学生たちと様々なことについて話したことです。

## 英語学習

現地での授業は、文法を学ぶというよりは、「リサイクルのあり方」などのテーマついて、思考し表現するという内容が多かったですが、自分の考えをうまく表現することが難しいと感じました。また、クラスの友達と話す機会が多くありましたが、ほとんどがメキシコ人で、英語を喋り慣れていたため、リスニングが難しかったです。

## 授業外の活動

ナイアガラ滝など、さまざまな場所に行ったり、他の留学生たちとゲームをしたりしました。その中で、海外の文化や生活でよく使う英語を学ぶことができました。



## 留学したことで学んだこと、得たもの

自分のリスニング力、スピーキング力を伸ばしていかなければならないと気づきました。また、海外の学生たちは、とても社交性がある一方、日本人だけが初対面でもじもじしていました。そこは良くない部分なので、自ら積極的に話せるように努力しなければならなかったと思います。日本が最も住みやすい国という話を聞いたことがありましたが、思っていたよりも、トロントは治安も街並みも人々の優しさも、日本と変わらないと感じました。その他にもこれまでの固定観念が崩れて新たな考えをもてるような体験を多くしました。

## 今後の進路や夢、これから取り組もうと思っていること

今後については詳しく決めていませんが、今回のような海外経験を活かして、世界を舞台にした仕事をしたいと思います。そのためにはテストの英語だけでなく、実用的な英語が必要なので、リスニングやスピーキングを意識した学習をしたいと思います。具体的には、YouTubeなどの英語の動画を見聞きしたり、自分の考えを英語で表現する時間を作ったりしたいと思います。

## これから留学される方へのメッセージ

留学先によるかもしれませんが、大体の場所は自分たちが想像しているよりも日本に似た人々や街並みであることが多いです。違いばかりを見るのではなく、「郷に入ったら郷に従え」でその文化を受け入れて楽しむことが大切だと思います。海外の学生たちはどんどん話しかけてくるので、一方的に相手の質問に答え続けるだけでなく、自分から話しかけていくとより仲が深まります。とにかく楽しむを目標にするといいと思います。

## 留学したことで学んだこと、得たもの

私は今回の留学を通して、本当にたくさんのことを学んだと思います。英語はもちろん、欧米の文化、考え方などだけではなく、精神的な強さを得ることもできました。今回の留学は4度目ということもあり、母からは「計画や交渉なども含めて、極力自分で全部やっつけてらん」と言われていました。自分から行きたいと言ったので、当然と言えば当然なのかもしれませんが、エージェントや学校と直接自分でやりとりする必要がありました。なかなか交渉が上手くいかず、ストレスが溜まって音を上げそうになってしまったことも一度ではありません。また、留学してからも様々なトラブルがあり、自力で担当の先生、そして学校と交渉しなければならないことがありました。先生の英語を聞き間違えて、エージェントや学校に迷惑をかけてしまったこともありますし、模試の成績が悪くて部屋でこっそり泣いてしまったこともありました。このようなつらい状況に立たされても、頼れるのは自分ただ一人。時差の関係で日本にいる母と連絡することもなかなか出来ませんでした。否が応でも自分一人で気持ちに折り合いをつけて、立ち直らざるを得ない状況になり、かなり精神的に強くなったと思います。英語や文化、考え方などは、現地に行かなくても日本で学ぶことは可能です。ただ、精神的な強さは経験なくしては得られないものであり、留学の主な目的ではなかったとはいえ、身につけることができて本当に良かったと思っています。



種別:エディンバラ語学研修  
期間:3週間 留学時の学年:2年



# イギリス エディンバラ

## 留学のきっかけ

私は高校1年生の時に学校のプログラムの洛北Global Leadership Program（洛北GLP）に参加し、そこで海外で活躍する日本人の方々の姿を見ました。そこから、私も日本だけではなく、海外も視野に入れて仕事ができる人になりたいと思うようになりました。そして、私は「洛北GLPでの学びを高校生のうちに活かすことができる機会がもう一度欲しい、高校2年生がその最後の機会だ」と思ったので、このエディンバラ研修に参加しようと思いました。

## 留学全般

### 一番の思い出

エディンバラは、別名フェスティバル・シティと呼ばれるほど、年間を通じて様々なイベントがあります。その中でも特に、8月は非常にたくさんのお祭りがあって街はとても賑わっています。私の1番の思い出は、ミリタリー・タトゥーという音楽祭です。その音楽祭に行くためには、事前に予約が必要で、会場はエディンバラ城の前の野外にありました。世界各国から集まった音楽隊が順番に演奏していき、インドやアメリカ、ポーランドなど、様々な国の演奏を生で聴くことができました。2時間があっという間に過ぎるほど私はお祭りに熱中していて、フィナーレのバグパイプの音が今でも忘れられません。

### 英語学習

エディンバラカレッジでは、毎日午前中にGeneral Englishと呼ばれる英語の授業があります。クラスは事前のテストや面接で分けられるので、自分のレベルに合った授業を受けられます。最初の方は、スコットランド特有の英語で聞き取りにくいこともあるかもしれませんが、だんだん慣れてくると思います。現地には、様々な国から集まった人たちがいて、パナマ、ハンガリー、ドイツ、メキシコ、イタリア、ポーランド、スペインなどから来ている人たちがいました。授業は全て英語で、ディスカッションをする機会が多くあり、様々な国の人たちと交流するのはとても楽しかったです。また、自分の知らないことが、まだまだたくさんあるのだと気付かされました。クラスの英語の先生たちは皆優しく、わからないことがあれば、なんでも笑顔で教えてくださいました。

### 授業外の活動

週に2回、午後からSocial Programというものがあり、エディンバラの市内のいろいろなところへ行くことができます。チョコレート作りをしたり、サーカスを見に行ったり、ハリーポッターアワードがあったりと、どれも非常に楽しいプログラムでした。また、土曜日は丸一日バスで遠出をします。その際は、お昼ご飯は自由行動となるので、友達と一緒に勇気を出して、おしゃれなレストランに入ってみたりなど、各自で楽しむことがたくさんあると思います。

## 留学したことで学んだこと、得たもの

留学を通して、世界にはいろんな人たちがいるということを改めて感じました。その中で、自分がどう上手くコミュニケーションを取り、相手に伝えるかが大切だと思いました。また、現地での生活で、SIMカード、イベントのチケット、カードの番号などを自分で設定するうちに、今まで自分がどれだけ親に任せきりにしていたのかと気付かされました。自分のことは自分で責任を持って管理するということの重要性を学びました。

## 今後の進路や夢、これから取り組もうと思っていること

私は今回の留学で、海外で働いて、海外に住みたいという思いが一層強くなりました。そのために、今できることは何かを考えて、毎日を大切に過ごしていきたいと思っています。

## これから留学される方へのメッセージ

留学というと、英語や現地での生活など、色々心配になることもあるかと思いますが、そんな時は、付き添いの添乗員さんや現地のスタッフ、友達など頼れる人がたくさんいるので、大丈夫です。私も、初日からスーツケースがなくなるというハプニングがありましたが、無事見つり、なんとかなりました（急カーブで車のトランクからポロリと落ちてしまっていたらしいです…）。また、ホームステイも、ホストファミリーとしっかりコミュニケーションをとれば、何も心配することはないです。素敵な家族が迎えてくれるはずです。ぜひ、留学を通して素敵な思い出をたくさん作ってください！



種別:探Q留学  
期間:3週間 留学時の学年:1年



# ペルー タリカヤ自然保護区

## 留学のきっかけ

日常で目にする新聞やニュースで地球温暖化について知り、より自然に近い環境で温暖化の現状を見たいと思いました。留学をすることで、将来自分が地球の環境問題について考えていく中で、ヒントとなる部分があり、異なった環境下で手掛かりとなることを見つけ出せるのではないかと思います。そういった理由で留学をすることに興味があり、自分が学びたいことに合わせて、自分で留学プログラムを決めることができる探Q留学に決めました。

## 留学全般

### 一番の思い出

一番の思い出は、タリカヤでカメの卵を砂浜に探しに行ったことです。タリカヤでは、「美味しいから」という理由で人々がカメの卵を乱獲していくため、問題視されています。私も実際に巣を一つ見つけることができ、卵を保護しました。また、様々な生物の足跡を見つけられたことや巣の作りなどにも感動しました。さらに、生物の生きる姿、生態を見つけられたように感じ、とても良い経験になりました。

### 英語学習

同じようにボランティアとして来た欧米からの留学生や、英語を話すことができるペルーの人々と食事やアクティビティ時に会話をしました。タリカヤの保護活動に対する説明は英語でされ、英語のリスニングのスキルが向上したと思います。一方で、自分の英語力に自信が持てず、あまり英語の会話に参加できなかったように思いました。また、タリカヤについての説明をされるときなど、自分が知らない単語が出たり、話すスピードが速かったりすると、何を言っているのかわからないことも多く、自分の英語力の低さを感じました。このような経験は、将来自分が海外に行くことに向けてのモチベーションにつながったと思います。

### 授業外の活動

ボランティアの人とバレーやサッカーなどのスポーツ、カードゲームをして過ごしました。互いの国で遊ばれているカードゲームのルールを教えあい、遊びました。新しいカードゲームで遊べたことも大切な思い出ですが、互いに打ち解け仲良くなれたことが最も心に残っています。

## 留学したことで学んだこと、得たもの

留学で信じていることができるのは自分だけのため、自分の行動への責任感を持つようになりました。日本から遠い場所に1人で行ったという経験は、自分がどんな環境に置かれても大丈夫という自信につながりました。タリカヤ自然保護区では、研究者の人が論文などを書くためにタリカヤでスタッフとして働いていました。彼らの研究は非常に興味深く、自然に近い環境で研究をすることの魅力を感じました。自分の将来の職業選択への選択肢が大きく広がったと思います。また、今回の留学で海外の人との交流の際、どのようなことに気を付けて話せば良いのかを自分なりに分析して理解することができました。

## 今後の進路や夢、これから取り組もうと思っていること

環境保護の現状は、想像よりも重々しいものではなく、現地では馴染みのあることとして行われていました。しかし、その反面、保護している野生動物が思うように行動してくれないこともありました。動物を保護することには責任が伴い、正しい保護の方法があるのだと学びました。その上で知ることが何よりも大切であり、ニュースなどではわからないこともあるのだと心から感じました。私は環境問題に新しい視点を持って取り組みたいと考えています。そのために、自分の目で見て判断することに努め、生物の保護のより良い方法や解決策を国際的に連携して見つける職業につきたいと思いました。

## これから留学される方へのメッセージ

一人で不安なことが沢山あるかもしれないけれど、徐々に環境に慣れていくと思います。もし自分に合わないと思っても、なんとかして楽しさを見つけることが大切です！留学は人生で何回も経験するようなものではないから、その瞬間を大切に悔いのないようにすることが本当に重要です。そして自分がしたいことに挑戦し、他の人の視点を恐れなくてください。



種別:探Q留学  
期間:2週間 留学時の学年:2年

# ケニア ソイサムブ自然保護区



## 留学のきっかけ

私は、昔から科学雑誌や科学番組を読んだり見たりすることが好きで、世界の色々な環境について知れる機会が多くありました。そのため、人生の中で1度はサバンナなどの日本とは全く違った環境をこの目で見てみたいと思っていました。そんな中でこの奨学金の制度を知り、せっかくの機会なので、実際にサバンナに行こうと思い至りました。そして、海外の企業のインターンに応募し、長年望んでいたサバンナを訪れることができました。

## 留学全般

### 一番の思い出

私の留学中の1番の思い出は、実際にサバンナを走る動物をこの目で見る事ができたことです。過去にも、テレビ番組や雑誌などで、走るシマウマやインパラなどの映像や画像を見ることがありました。しかし、いざ自分の目でみると、シマウマの足が想像よりも少し短かったり、サバンナにはインパラしかいないと思っていたのがインパラに似た動物が多くいたりなど、映像を通してでは分からない発見をたくさんすることができました。

### 英語学習

私が参加したのはボランティア活動のため、英語の授業を受けることはありませんでした。しかし、ルームメイトやスタッフは外国人だったので、コミュニケーションをとるためには英語を使う必要がありました。最初は自分の英語力があまり良くなかったので、何を話しているのかが分からなかったり、自分の言いたいことがうまく伝えられなかったりしました。そのため、相手が何について話しているのかに注意を払ったり、会話の際にはシンプルで分かりやすい表現を使ったりしたことで、活動前と比べ英会話の能力がかなり上昇したと感じました。

### 授業外の活動

ボランティア活動の無い日は、近くにあるNakuruという街に買い物に行ったり、赤道直下の地点まで遠出したりしました。ケニアでは、すれ違う時にほぼ全ての人が挨拶をしてくれたり、子供も積極的に目を合わせてきてくれたりし、日本とは異なる点としてとても新鮮だと感じました。



## 留学したことで学んだこと、得たもの

私はこの留学で世界には日本と全く違う文化があることをこの目で確かことができました。例えば、ケニアの物価は日本と比べて物凄く低かったり、街に信号機が無かったり、子供がハイタッチしに来てくれたりなど、日本では到底考えられない経験をたくさんし、自分の中の常識が覆されました。私はこの留学を通して、日本で身につけた常識は他国では役に立たないことがあると知りました。また、物事を考えるときは、一つの視点に囚われてはいけないということを深く実感しました。

## 今後の進路や夢、これから取り組もうと思っていること

私は将来、大学で野生動物や自然環境に関係することを学び、実際に環境の保護に携わる仕事に就きたいと考えています。そのために、高校生でケニアへ留学に行ったことを活かし、将来大学で環境について学ぶ際に、今回の留学で得た「全く異なる価値観から考える力」を活かしたいと思います。

また、私は、日本で野生動物の保護に対する関心を高めたいと思いました。ケニアで得た知識や体験を日本に持ち帰り、日本での環境保護や野生動物保護の状況と照らし合わせて状況を考察し、その内容を多くの人に伝えていきたいです。

## これから留学される方へのメッセージ

私は、海外に行くのは初めてで、学校での英語の成績もとてもよかったわけではありません。そのため、留学前は英語が話せるかどうかがとても不安でした。しかし、いざ海外に行ってみると、綺麗な文章で話せなくても、単語やボディランゲージで割と自分の伝えたいことが伝わるとわかりました。そのため、留学に行く際は、きれいな英語を話すことより、まず人に話しかける自信をもつことの方が大事だと思ったので、みなさんもそのことを意識してみてください。

